

平成 29 年度中間評価結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名					
統括責任者	役職		実施責任者	部署名・役職	
	氏名			氏名	

※本報告書の記載内容は、必要に応じて研究大学強化促進事業推進委員会からのコメントを付し、文部科学省ホームページにおいて原文のまま公開する。

平成 29 年度中間評価結果
評点区分：
全体に対する所見
当初構想・計画の進捗状況に対する所見
今後 5 年間の将来構想に対する所見

将来構想の達成に向けた現状分析
将来構想 1 【 】
① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況
② 現状の分析と取組への反映状況
将来構想 2 【 】
① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況
② 現状の分析と取組への反映状況

将来構想 3 【 】
① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況
② 現状の分析と取組への反映状況

【参考】論文の質に係る指標について		
2013 年-2017 年平均	Scopus	WoS
国際共著論文率	%	%
産学共著論文率	%	%
Top10%論文率	%	%

研究大学強化促進事業推進委員会コメント

平成 29 年度中間評価結果への対応状況と今後の事業展開について〔記入要領〕

本様式は、各機関が中間評価を踏まえ再構築した「研究力強化構想」(将来構想報告書)に基づく事業の進捗状況を確認する目的で作成するものである。

今後は、毎年度実施するフォローアップを通じた各機関による成果と課題の分析による見直し(限られた資源を成果の高い取組に重点的に投入するなど)の取組に、本様式を活用するものとする。

1. 「平成 29 年度中間評価結果」、「全体に対する所見」、「当初構想・計画の進捗状況に対する所見」及び「今後 5 年間の将来構想に対する所見」欄には、中間評価結果の内容を転記すること。
2. 「将来構想の達成に向けた現状分析」欄には、機関としてのビジョン実現に向けた、本事業における今後 5 年間の構想(研究力強化・戦略など)について、構想(ロジックツリー上の「将来構想」)ごとに下記の内容を踏まえて、適宜データやエビデンスを用いて簡潔に記載すること。必要に応じ欄を追加・削除すること。
 - ① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況
 1. で記載した、中間評価結果の所見を将来構想にどのように反映させたかを記載すること。
 - ② 現状の分析と取組への反映状況
各将来構想に関係する「事業終了後までのアウトカム」及び「中間的なアウトカム」指標の 2017 年度実績を踏まえ、目標達成に向けた課題を整理し、それらを 2018 年度以降のアウトプット(取組)にどのように反映させたかを記載すること。
3. 「【参考】論文の質に係る指標について」欄には、「国際共著論文率」「産学共著論文率」「Top10%論文率」(5 カ年(2013 年-2017 年)の平均値)について、機関で把握可能な場合のみ該当箇所に記載(小数点第二位四捨五入)すること。